

国際会議の報告

The 50th IEEE Conference on Decision and Control
and European Control Conference に参加して

蛸原 義雄*

主 催: IEEE Control Systems Society (CSS),
European Union Control Association (EUCA)
会 期: 2011 年 12 月 12 日 ~ 15 日
会 場: Hilton Orlando Bonnet Creek, Orlando,
Florida, USA.
参加者数: 1620 名
発表論文数: 1354 件
Proceedings 発行所: IEEE

2011 年の IEEE Conference on Decision and Control (CDC) は, Walt Disney World Resort などいくつかのテーマパークを有する全米屈指の保養地 Orlando で開催された. 50 周年を迎えた今季の CDC は特別なものであり, その誕生や歴史を振り返る盛大なイベントも催され, 会場は終始華やかな祝賀ムードに包まれていた. European Control Conference との合同開催という事情もあつてか, 投稿論文数は昨年を上回る 2290 件となり, そのうち 1354 件の論文が採択された(採択率 59%).

会期中の毎朝 8:30 から 9:30 の間には, Lennart Ljung 教授 (Linköping University) の Potentials and Possibilities of Regularization in System Identification, John C. Doyle 教授 (California Institute of Technology) の Universal Laws and Architectures, そして Mathukumalli Vidyasagar 教授 (University of Texas at Dallas) の Probabilistic Methods in Cancer Biology と題した 3 件の Plenary Lecture に加え, John Baillieul 教授 (Boston University) の Fifty Years of Information Based Control Theory と題した CSS Bode Lecture が行われた. また, lunch break 後の午後 13:30 から 14:20 の間には, 4 日間で計 8 件の Semi-Plenary Lecture が実施された. 中でも Semidefinite Relaxation for Quadratic and Quartic Optimization with Applications to Wireless Communication と題した Zhi-Quan Luo 教授の講演は興味深く, 半正定値計画を用いた線形システムのロバスト性能解析に関する諸結果との間に多くの共通点を見いだすことができた.

一般セッションに関しては, 22 のパラレルセッションが 4 日間に渡って実施された. Networked Control, Biological System および Multi-Agent System に関す

る発表が多く, 筆者が聴講参加した Dynamics Over Complex Networks と題したセッションは聴衆が会議室から溢れるほどの盛況ぶりであった. 筆者は凸最適化や非負システム理論の視点から講演に聞き入ったが, 新しい発見もあり有意義であった. また, 近年のエネルギー情勢を反映した Smart Grid や Renewable Energy に関するセッションも大きな注目を集めていたようである.

なお, CDC では例年 Best Student-Paper Award の選考が行われおり, 本年は Takashi Tanaka さん (Univ. of Illinois, Urbana-Champaign) が本賞を受賞された. 受賞対象は Cedric Langbort 教授との共著論文 Symmetric Formulation of the Kalman-Yakubovich-Popov Lemma and Exact Losslessness Condition である. 本報告に記すとともに謹んでお祝い申し上げる.

CDC50 周年にふさわしい会議報告をとの編集委員の方々からのプレッシャーに応えるべく, 会期中もあれこれと策を練ったが到らず, 少し晴れない心持ちで banquet に臨んだ. すると会場にて, 永きにわたり CDC を牽引しておられる先生方と, 新進気鋭の研究者の方々と写真撮影をさせて頂ける好機を得た. 拙文を並べるよりもずっと価値のあるこの一枚の写真を掲載させて頂き, 筆者の会議報告の結びとしたい.

末筆ながら, 本国際会議の論文投稿締め切り間際に発生した東日本大震災によって被害を受けられた方々に, 心よりお見舞い申し上げます.

(2012 年 3 月 1 日受付)



第 1 図 盛大に催された banquet にて

* 京都大学 大学院 工学研究科